

受講料と受講生のニーズについて

高岡短期大学開放センター教授 坂 川 幸 雄

高岡短期大学開放センター助手 藤 田 徹 也

1. はじめに

本学は、昭和63年度より放送公開講座（テレビ講座）を開始し、今年度は第5回目の放送公開講座「デザインの時代」を実施した。本学は、放送公開講座を大学開放の一環として捉え、積極的に取り組んでいる。その理由の一つは、放送公開講座が時間的・空間的な制約にとられない学習の場を提供し、高まりつつある生涯学習に対するニーズに応える可能性を持っているからである。

本学では、平成3年度より受講生から正式に受講料（テキスト代を含む）を徴収することになった。将来、放送公開講座を有効な遠隔教育の方法として発展させていくためには、受講料を支払うという前提のもとでの、受講生の放送公開講座に対する意識、および受講生が大学に期待するサービスを把握することが不可欠である。

表1 5年間の経費負担の経緯

年度	科 目 名	テキスト代	受講料
63	工芸の世界	2,000	—
元	みじかなコンピュータ	2,300	—
2	木からのメッセージ	2,300	—
3	いま、みつめよう国際化	—	3,350
4	デザインの時代	—	3,350

本研究では、受講生に対するアンケート調査および一般公開講座受講生との比較等によって、受講料に関する受講生の意識を調査・分析し、その結果を考察する。

2. 研究の方向と内容

2.1 放送公開講座における学習活動と受講生のニーズ

本学の受講生の放送公開講座における学習活動を、空間的な特性、時間的な特性、および双方向性に着目して整理したものを図1に示す。

放送メディアはリアルタイム・片方向の特性を持っている。また、受講生に見られる自主性の発達、興味・関心の多様化、学習条件の種々の制約から、学習形態は一斉授業形式よりも、個別学習形式が中心となっている。したがって、受講生の学習活動は、番組視聴と録画視聴・テキストによる学習とが中心になっている。これらの学習は個々の受講生が互いに離れた場所で行い、また、講師から受講生への一方的な教授が行われる。

スクーリングはこのような遠隔・片方向の学習の欠点を補うものとして位置付けられている。

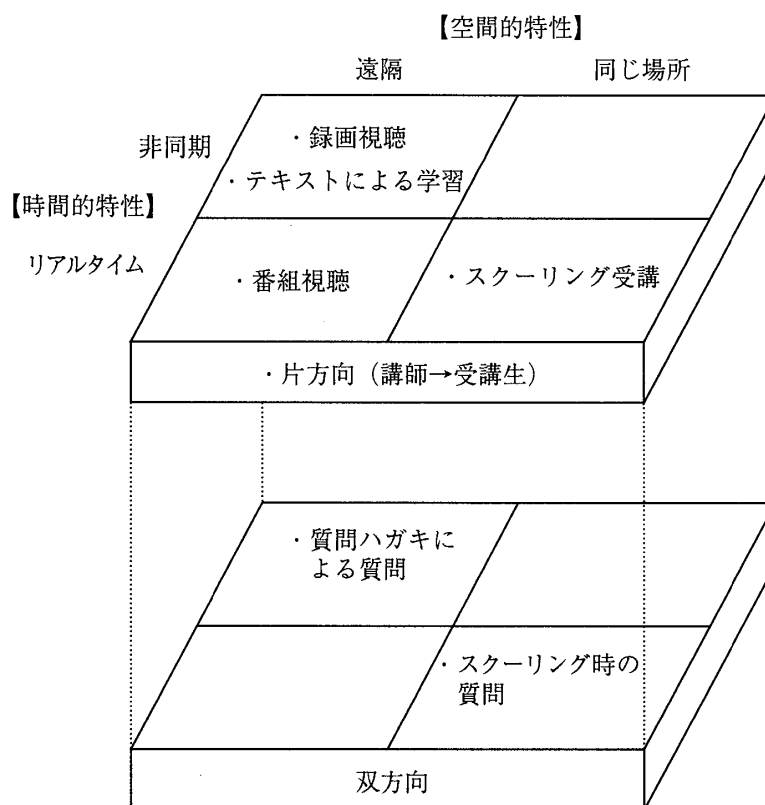


図1 放送公開講座における学習活動

すなわち、質問・討論によって講師と受講生間および受講生同士の双方向のコミュニケーションを図る目的で行われている。しかし、このような双方向コミュニケーションは、スクーリングの時間が限られていることもあり、質問・討論はなかなか発展せず、多くは講師からの片方向の講義になっている場合が多いのが現状である。また、もう一つの片方向の通信手段である、質問ハガキ（テキストに綴じ込み）の活用も少ない。

このような現状に対して、受講生はどのようなニーズを持っているのだろうか。このことを明らかにするために、時間・空間・方向の各特性に応じて、放送公開講座の学習活動を充実させる可能性を持つ要素例を図2に示す。

図2の各要素を実際のサービスとして受講生に提供するためには、下記のような面での検討および問題の解決が必要である。

(1) 受講生の意識と学習指導

スクーリング時の質問・討論の拡大等、双方向の学習活動が充実したものになるためには、受講生にはより積極的な講座への参加が求められる。また、講師にとっては受講生からのフィードバックを利用した学習指導が可能になり、テキストおよび番組による学習指導と同様に、放送公開講座を構成する重要な要素となる。

(2) 通信環境

現在、講師と受講生との双方向コミュニケーションの手段として、郵便、FAX等が利用されている。遠隔双方向コミュニケーションをより有効にするメディア（パソコン通信、デジタル電話、双方向CATV等）による新しい通信環境が整備されつつある。

本学が実施している対面型の公開講座（一般公開講座）の受講生と放送公開講座の受講生の結果とを比較する。

受講生へのアンケート調査のうち、本学が独自に実施する部分に、これらの項目に関する調査項目を設定した。また、一般公開講座受講生のアンケートにも、上記(1)、(3)（受講料の金額に関する感想・公開講座に対する希望）の調査項目を設定し、アンケートを実施した。

図3 平成4年度のアンケート調査項目

〈放送公開講座〉

問31. 受講料のことでお尋ねします

a) 今回の受講料の金額についてどのようなご意見を持たれたでしょうか。1つだけ選んでください。

1. 高い 2. やや高い 3. 適切である 4. やや安い 5. 安い

b) a) の回答は、以下のどのような観点に立って選択されたのでしょうか。該当すると思われるものをいくつでも結構ですからお答えください。

1. 番組の内容
2. 放送回数・時間（30分×9回）
3. テキストの内容
4. スクーリングの内容
5. 学習の満足感
6. 他の機関が主催する講座と比較して
7. その他（回答用紙の自由記述欄ウに、具体的にお書き下さい。）

問33. 今後の放送公開講座に対する要望についてお尋ねします。以下のa)～f)の設問についてそれぞれ1つ選んでください。

a) 合計放送時間数の増加

1. 強く希望する 2. 希望する 3. あまり希望しない 4. 希望しない

b) スクーリングでの受講生に対する個別指導の充実

1. 強く希望する 2. 希望する 3. あまり希望しない 4. 希望しない

c) スクーリングでの受講生間の討論・交流の充実

1. 強く希望する 2. 希望する 3. あまり希望しない 4. 希望しない

d) テキストの充実

1. 強く希望する 2. 希望する 3. あまり希望しない 4. 希望しない

e) 電話・FAX等を利用した在宅学習の充実

1. 強く希望する 2. 希望する 3. あまり希望しない 4. 希望しない

f) 放送公開講座の学習成果を単位として認定すること

1. 強く希望する 2. 希望する 3. あまり希望しない 4. 希望しない

〈一般公開講座〉

質問13 受講料についてお尋ねします。

a) 今回の受講料の金額についてどのようなご意見を持たれたでしょうか。次のなかから1つだけ選んで下さい。

3.1 受講料に対する評価

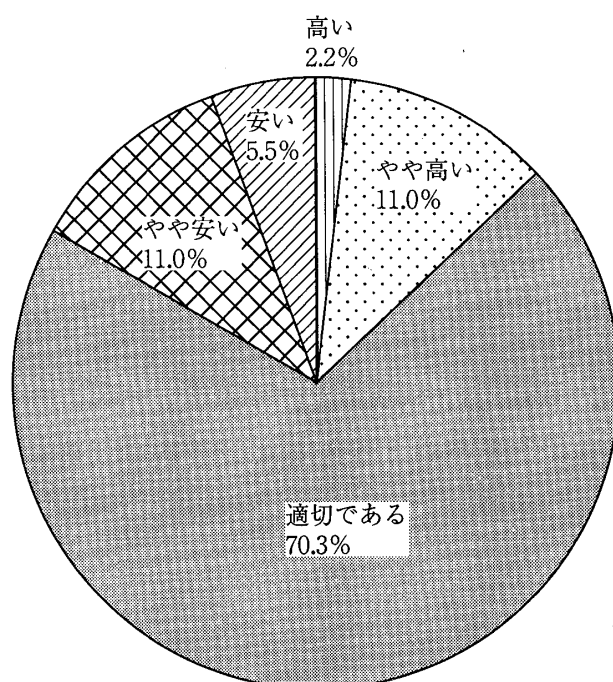


図4 受講料の金額に対する受講生の感想

受講料の金額に対する感想に関する設問では、「適切である」と回答した受講生が70.3%を占めている。これは昨年度の値（63.6%）を上回っている。また、「高い」「やや高い」と回答した受講生（13.2%）は昨年度（24.6%）に比べて減少している。受講料に関する調査は、今回を含めて2回目ではあるが、受講料の金額（3,350円）は、概ね妥当な金額として、受講生に受け入れられていることがうかがえる。

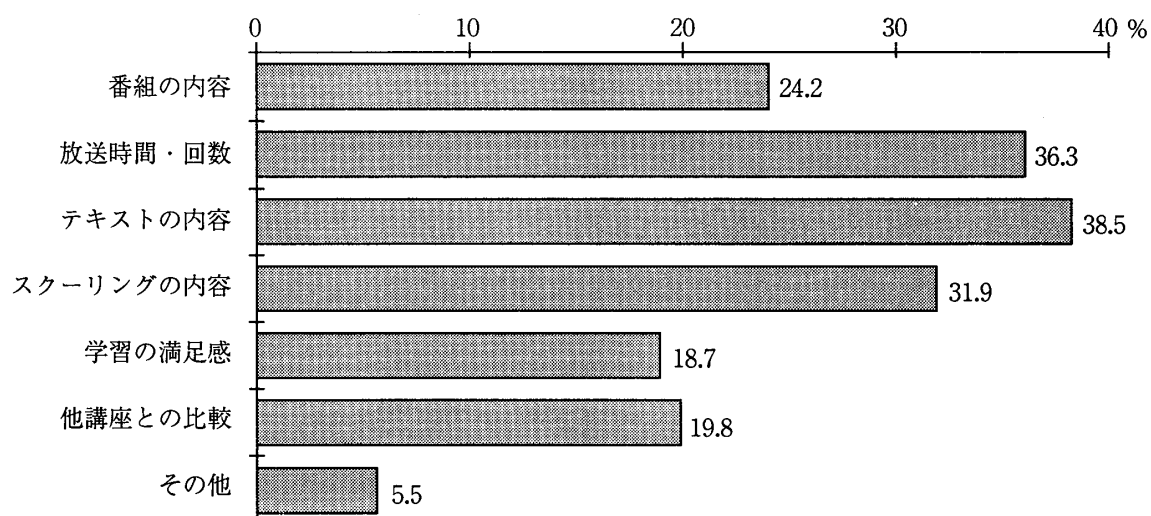


図5 金額に対する感想を選択した観点

(名)

	受講料に対する感想							
	高	い	やや高い	適	切	やや安い	安	い
番組の内容	0		0	17		4		1
放送時間・回数	0		4	24		3		2
テキストの内容	0		1	28		2		4
スクーリングの内容	0		2	21		3		3
学習の満足感	0		3	10		3		1
他講座との比較	1		1	10		4		2
その他	1		0	3		0		1

図6 金額に対する感想と観点とのクロス集計結果

受講料に対する感想を選択した観点では、昨年度と同様に「テキストの内容」(38.5%)を挙げた受講生が最も多かったが、今年度の特徴的な点は、「スクーリングの内容」と回答した受講生が昨年度の9.1%から31.9%に急増したことである。これは、実習等を積極的に取り入れた今年度のスクーリングが肯定的に評価されたからであると考えられる。スクーリングの評価については、3.2節であらためて考察する。

図6は受講料の金額に対する感想と、その感想を選択した観点とのクロス集計結果である。サンプル数が少ないこともあり、このデータについてはあまり特徴的な傾向が見られなかった。

3.2 今年度のスクーリングに対する評価

今年度のスクーリングに関する項目についての調査結果を図8に示す。

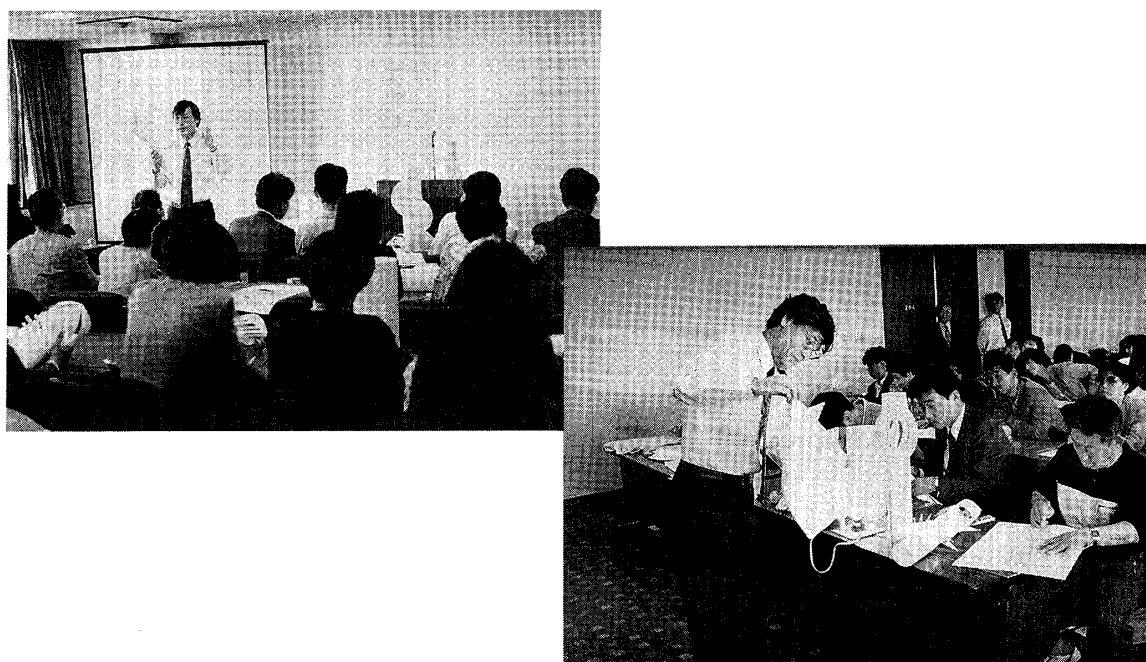


図7 今年度のスクーリング風景(写真)

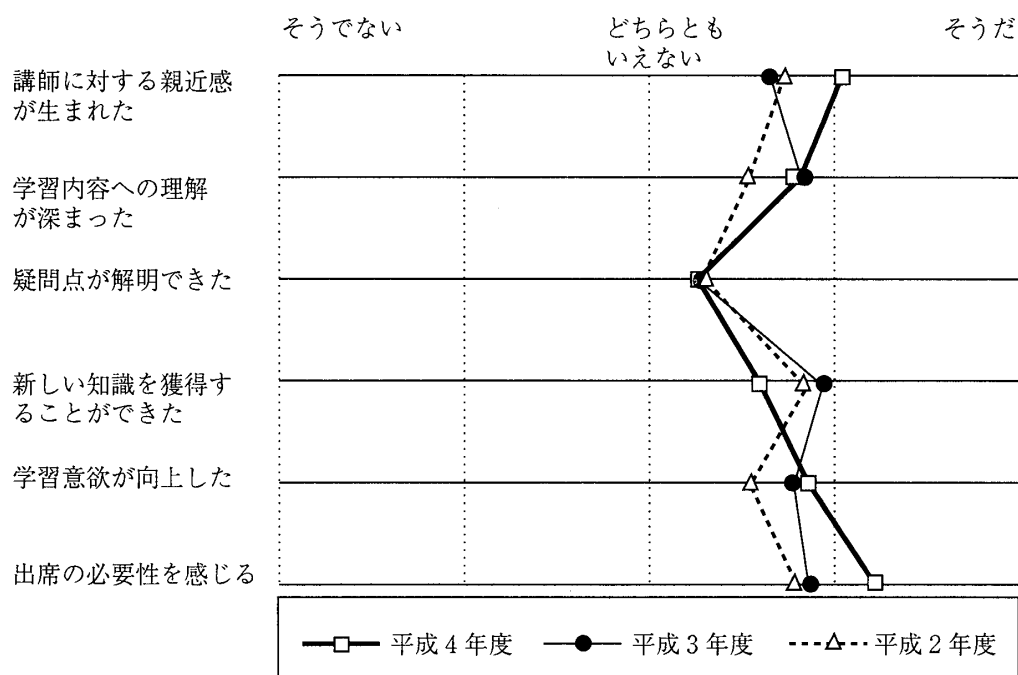


図8 スクーリングに対する評価

図8から明らかなように、「講師に対する親近感」及び「スクーリングへの出席の必要性」の項目について、今年度の評価は平成2年度・平成3年度を上回っている。実習等を取り入れた今年度のスクーリングの形式が、肯定的に受け入れられたことから、スクーリングの出席者には、主体的に学習活動に参加しようとする意欲の強いことがうかがえる。

ただし、スクーリングの内容が、番組の内容とは直接関連しない回もあり、スクーリング出席者の「新しい知識の獲得」に対する評価は例年よりも低く、また、自由記述欄の中にも、「スクーリングは、番組に対応して実施して欲しい」とする記述もある。

基本的には、実習等の導入によって講師との相互作用性を増していくことが望ましいが、スクーリング本来の役割である、「番組内容の補完」という面も十分考慮して実施する必要があると言えるのではないだろうか。

3.3 放送公開講座に対する希望

放送公開講座に対する希望に関する調査項目は、今年度から新設した項目である。このため、昨年度までのデータとの比較はできないが、各項目間の比較は可能である。各項目に対する受講生の要望の平均(図9)を見ると、「テキストの充実」「放送時間の増加」等の、現状の学習システムの充実を希望する傾向が強く、次いで「個別指導の充実」「討論・交流の充実」等のスクーリング時の学習活動の活性化を望む傾向が強い。

一方、「電話・FAX等を利用した在宅学習の支援」「単位としての認定」に対する要望はやや低い。「在宅学習の支援」を希望する受講生が少ないことは、放送の視聴のみを主とした受動的な学習形態を志向する受講生が多いことを示していると思われるが、「在宅学習の支援」が受講生になじみが薄く、具体的なサービスの内容が把握されていないこともその一因であると考えられる。

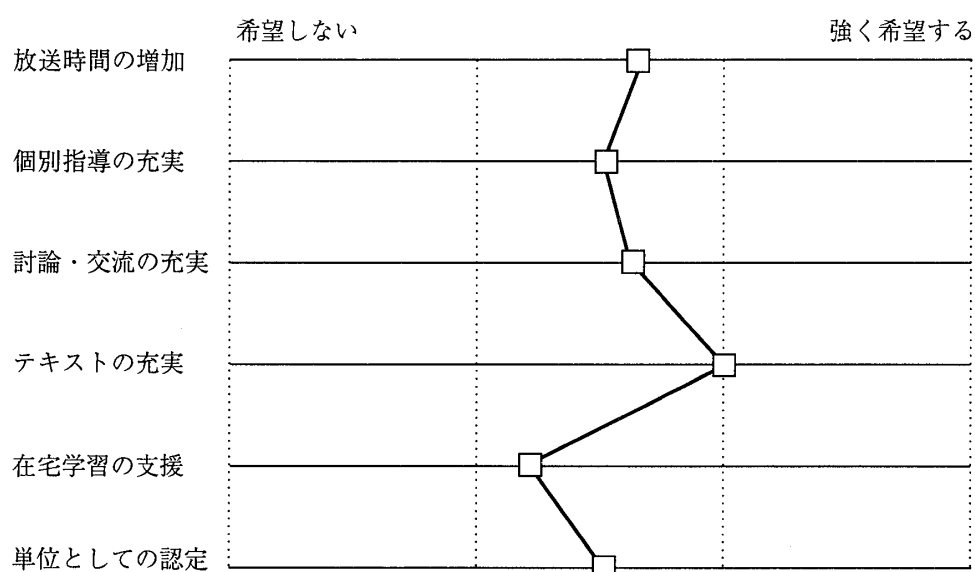


図9 放送公開講座に対する希望

3.4 一般公開講座との比較

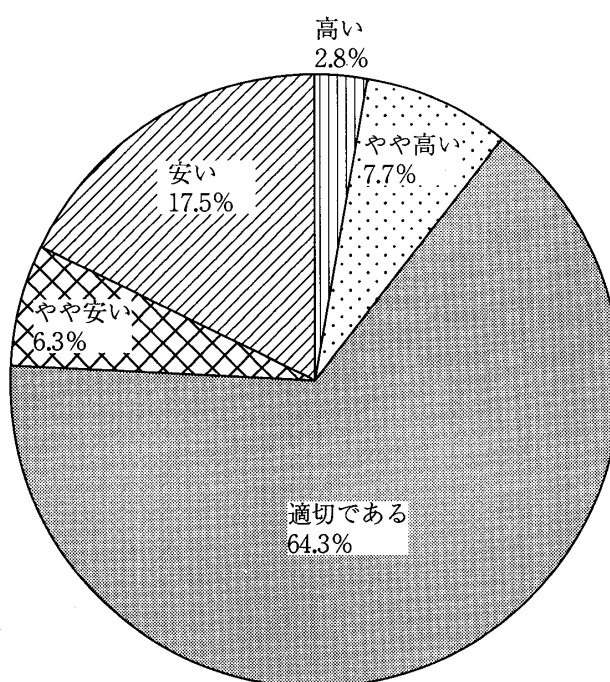


図10 受講料の金額に対する感想（一般公開講座）

図10・図11は、本学の実施している一般公開講座（11講座）の受講生に対して、受講料の金額に対する感想、および金額に対する感想を選択した観点についてのアンケート集計結果である。また、図12は、公開講座への要望に関する各項目について、放送公開講座と一般公開講座との受講生の回答（平均値）を比較したものである。

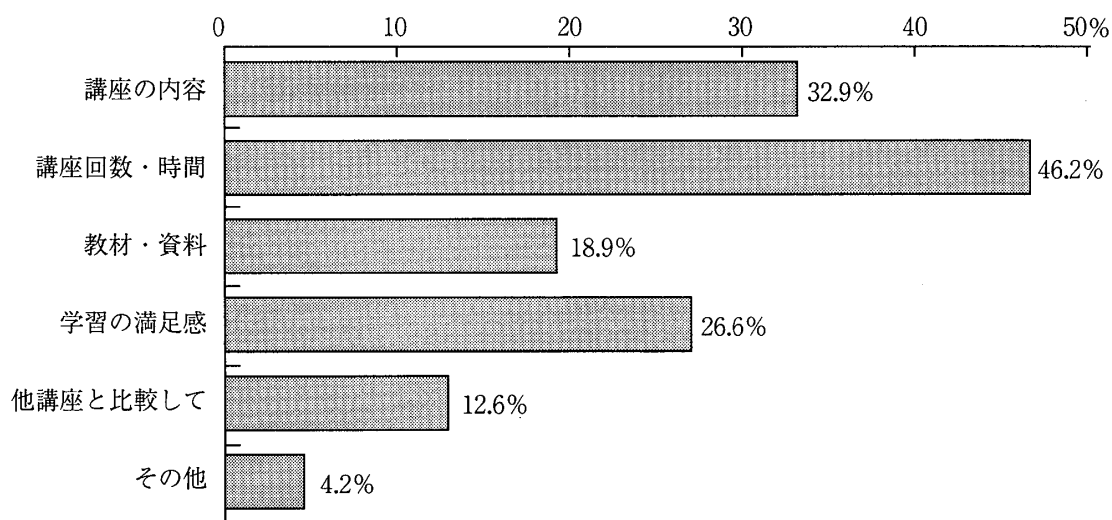


図11 金額に対する感想を選択した観点（一般公開講座）

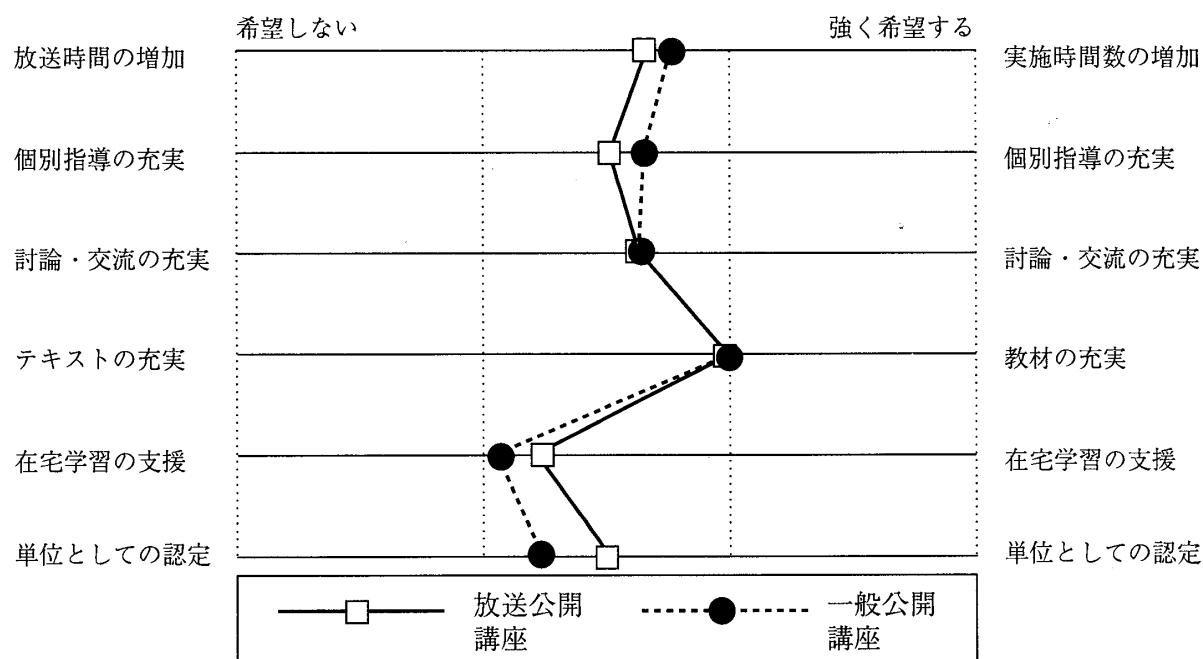


図12 公開講座への要望（比較）

受講料の金額に対する印象では、放送公開講座受講生と比較して、「安い」と回答した受講生の割合が多かった（一般公開講座17.5%、放送公開講座5.5%）。その感想を選択した観点としては、「講座の内容」（32.9%）、「講座回数・時間」（46.2%）を挙げる受講生が多い。このことから、一般公開講座受講生は、受講料の対価として、講師と直接対面して学習することを重視している傾向がうかがわれる。

公開講座への要望を、放送公開講座受講生と比較すると、共通した傾向が認められ、興味深い。すなわち、一般公開講座受講生も、「実施時間数の増加」「教材の充実」「討論・交流の充

実」等の現状のシステムの充実を望む傾向が強く、「在宅学習の支援」「単位としての認定」には否定的な受講生も多い。われわれは、学習形態の相違から、放送公開講座受講生のニーズは、一般公開講座のものとはかなり異なっている面があると考えていたが、両者の志向の共通点と相違点について、来年度以降の調査によって、より詳細に考察する必要性を感じている。

4. おわりに

前章までの調査結果および考察により、受講料の金額に対する意識、受講料の対価としての価値観、および今後の受講生サービスに対する志向について、何点かの注目すべき事項が明らかになった。来年度以降もこれらの項目に関する調査を継続し、受講生のニーズを把握していくことが重要である。

同時に、例えば、今年度のスクーリングのように、講師との相互作用性を増すアプローチを積極的に試みるとともに、「テキストの充実」等、今年度の調査において受講生の要望が強かった項目については、可能な範囲で速やかに実施していくことが必要であり、これらの「調査のフィードバック」は受講生を獲得する上でも有効であろう。